

# 野球とニューウェーブと 甲子園と



ピエール瀧 (ミュージシャン、俳優)

ミュージシャン、俳優、タレントとして活躍するかたわら、  
草野球チーム「ピエール学園」のオーナー兼監督兼選手を務めるピエール瀧。  
中学時代、友人の誘いで野球部に入り、その後、高校3年間野球を続け、  
ついに甲子園のグラウンドに立った(!)男が、「電気グルーヴ」の相方・石野卓球との出会いを  
振り返り、草野球をやることで初めてわかってきた野球の面白さについて語る。

「野球に対する美意識」は、  
『ドカベン』で養われた

瀧さんは、子どもの頃から野球が好きだったんですか？

瀧 僕は、昭和四二(一九六七)年生まれなんですけど、そのぐらいの世代の子どもたちが、みんな集まって何かやるっていったら、まあ野球じゃないですか。僕の地元は静岡市なので、サッカーどころではあるんですけど、何の疑問も持たずに、空き地とか河川敷かせんじきに行っただけ、みんな野球をやっていました。ただ、プロ野球とかは、そこまで熱心にテレビで観るわけでもなく、みんな集まって、やるものとしての野球が好きっていう感じでした。

——野球マンガは読んでいた？

瀧 『ドカベン』とかは読んでいました。小学生の頃、河川敷で野球をやって帰ってくる道中に、マンガが一冊落ちていたんですよ。カバーなしのコミックスが。で、「これ、何だ？」と思って拾ってみたら、それが『ドカベン』の一一巻だったんです(笑)。

——そんな出会い方があるんですね(笑)。

瀧 読んでみたら『ドカベン』の一一巻って、山田(太郎)たちが県大会を勝ち抜いて、これか

ら甲子園に行くっていうタイミングで、明訓高

校の選手たちを改めて紹介する内容だったんですよ。岩鬼いわま(正義)っていうのはこういうヤツで、殿馬とんま(一人)はこういうヤツで、北(満男)くんには妹がいて……とか。それを読んで「オモロい」ってなって、その前後の巻から自分で買って読み始めるようになったんです。当時テレビでやってた『巨人の星』とか『侍ジャイアンツ』とかのアニメは一応観ていましたけど、あのへんの話って、わりとファンタジー寄りの野球の話じゃないですか。

——「魔球」とかが出てくるような……。

瀧 そうそう。『ドカベン』って、そういうのではないじゃないですか。結構リアル寄りというか、スイングの感じとかバットのインパクトがどうこうとか、そういうことがちゃんと描かれていて。だから、「野球に対する美意識」は、『ドカベン』で養われたところがあるかもしれないです。

——中学校に入ってからはずいぶん野球部に？

瀧 いや、中学では最初、剣道部に所属していました。ただ、朝練があって、さらに部活のあと、知り合いの道場で、また練習するとか顧問の先生が言い出して……それが嫌で、だんだん部活に行かなくなっちゃったんですよ。その

あとは、生徒会とか、そっちのほうをやっていたんですけど、中二のときに、小学生の頃一緒に野球をやっていた同級生が、「瀧、野球部入りなよ」って誘ってくれて。それで、野球部に入った感じなんです。

——野球部にはどんな思い出がありますか？

瀧 三年生が夏の大会でいなくなる一カ月前ぐらいに入部したので、ちょっとズルいというか、下積み期間がほとんどないっていう(笑)。で、一カ月後には、自分たちの天下になったから、四番キャッチャーで、わりと自由にやらせてもらってました。ただ、三年生になって、最後の夏の大会の一カ月ぐらい前の練習試合で、僕、自打球を左目に当てて、三週間くらい入院するんですよ。で、その間に、夏の大会が終わっちゃって。

——あら……。

瀧 それで、左目の視力が落ちちゃって、「野球できるのかな？」っていうのはあったんですけど、やっぱりどこか無念というか、不完全燃焼みたいなところがあったのかな？ 高校に入ったら、とりあえず野球部に入って、やれるところまでちゃんとやってみようと思って。それで、高校は最初から野球部に入って、三年間、ずっと野球部でした。

——そこでは、熱心に練習されていたんですか？

瀧 熱心というのか、中学の頃の野球部は、途中から入ったというのもあるし、顧問の先生もそんなに熱心ではなかったんで、高校に入って初めてガチで練習するみたいな感じだったんですよ。それまではキャッチャー一本だったんですけど、同年のシニアでやっていたヤツがキャッチャーになるから、僕はファーストにコンバートされて……要は、そこで初めてフィールドプレーヤーをやるわけです。「わっ、ゴロが飛んでくるんだ！」みたいな(笑)。そういうところからのスタートだったんで、それなりに練習はちゃんとやりましたね。まあ、打つほうは、わりと自信があったりもしたので。

——高校三年間は、甲子園を目指して野球に打ち込んでいたわけですね。

瀧 まあ、甲子園というのは、一応お題目というか……僕が通っていた静岡東高校は、普通の県立高校で、そもそも甲子園に出たことがない学校だったんですよ。なので、甲子園に出ることに、そこまで現実感があつたわけでもなく、ただ、その頃、僕の高校が市内のいろんな中学から、ある程度、野球の能力の高い選手を集めるようなことをやっていたみたいなんです。三年計画でそれをしていて、その三年目が僕